

民泊業における省エネの取組について

台東区役所環境課

1. はじめに

宿泊業では、お客様に関わるエネルギー使用量をコントロールするのが難しいため、省エネのアプローチとしては、大きく2つあります。

- ① 機器のメンテナンスや設定などでエネルギー使用量を抑える
- ② 省エネ機器を導入・更新する

2. 運用面でのアプローチ

① 空調室外機の清掃

室外機が汚れていると空調の効率が落ち、余計に消費電力を使用します。夏期や冬期のエアコンを使用するシーズン前に室外機の点検と清掃をするとよいでしょう。

- ▶ 落ち葉やごみ、蜘蛛の巣、砂やほこりをほうきなどで砂やほこりなどでやさしくとりのぞく。
- ▶ フィン（薄い金属板の部分）が汚れている場合は、水をかけてブラシなどで軽くこすって洗い流す。

交通量の多い道路などに面した所に室外機がある場合は、排気ガスの汚れをとるために数年に1回は専門業者に依頼し、薬剤での洗浄をしてもらうことをお勧めします。

室外機の前 20 cmの範囲は物を置かない、夏期は市販のカバーやよしずなどで日陰をつくるなど直射日光が当たらない工夫をすることでも、負荷を減らすことができます。

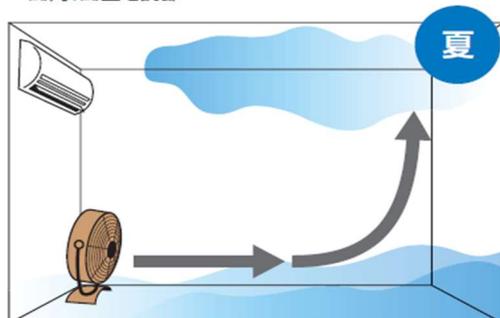
② 室内の空調

室内温度は場所によって温度にムラがあります。温湿度計を設置し、快適な温度を把握しましょう。天井ファンやサーキュレーター、扇風機などで室内温度の均一化を図ることで、効率的な空調運転となります。

暖気は上部、冷気は下部に溜まります。扇風機やサーキュレーターを使う場合、冬期は天井に向けましょう。夏期は水平からやや下に向けて使用することで、風の流れ（気流）により涼しさを体感できます。

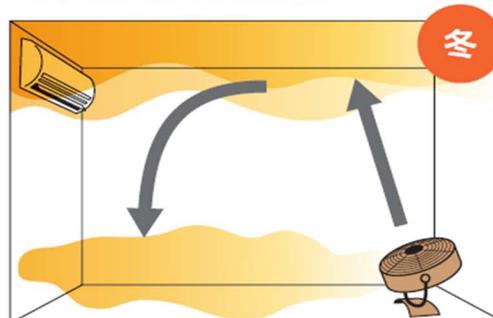
■ 夏期(冷房時/水平分布)

在室者に不快感を与えない程度に風があたるよう、風向、風量を調節



■ 冬期(暖房時/垂直分布)

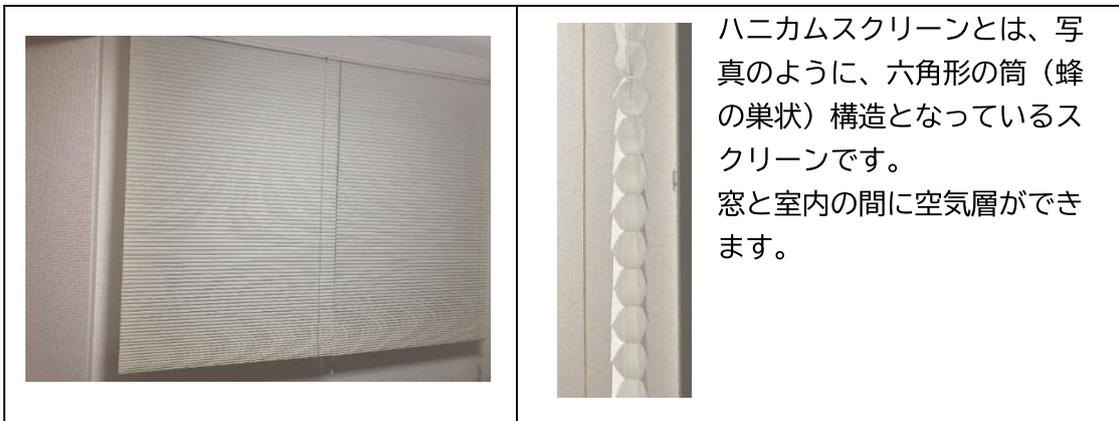
天井付近に滞留している暖気を循環して室内温度を均一化するために上向きに調整



出典：印刷業の省エネルギー対策改定版 東京都地球温暖化防災活動推進センター

ガラス面が大きく一枚ガラスの窓がある場合、外気温の影響を受け空調負荷が大きくなりやすくなります。建築物の省エネ性能向上として二重窓化があり、空気層を作る事で外気温の影響を緩和します。

二重窓工事をすぐにできない場合は、カーテンやブラインドをハニカムスクリーン等に変えることで断熱・遮熱性能が高めることができます。

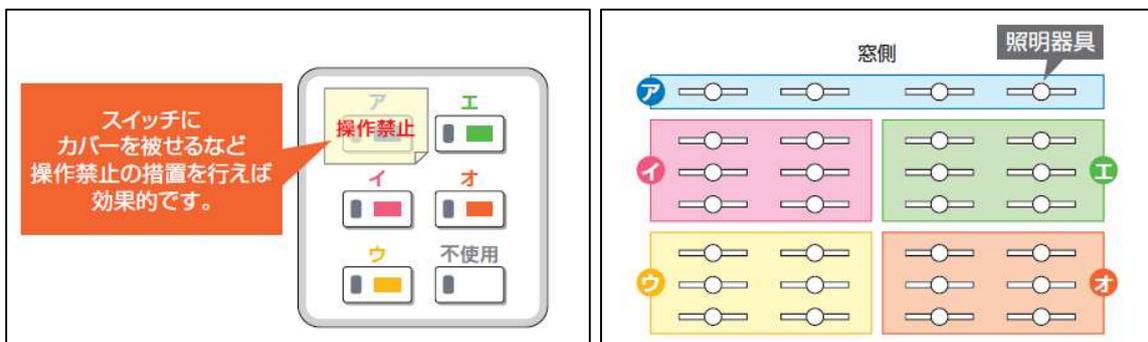


ハニカムスクリーンと断面

③ 照明

照明スイッチに点灯エリアが分かるステッカーを貼り、点灯消灯の判断をしやすくします。

晴れていて採光の良い日は窓側を消灯、人が不在エリアの消灯など、ルールを決めておくことも大切です。



点灯マップの例

④ 電気温水器（給湯器）

小型電気温水器は機器によりますが出湯温度は60℃となります。この給湯温度を保つために、常に電力が使用されている状態となります。

1週間以上お湯を使用しない、夏場など、お湯が不要な時期はスイッチを切っておくことで節電になります。

長期間使用せず、使用を再開する時は、タンク容量の2倍（25ℓ×2）程度の通水を行い、タンク内の水を入れ替えてから使用しましょう。

⑤ 冷蔵庫の維持管理

設定温度を「強」から「中」にすることで節電につながります。

また、冷蔵庫本体の周囲(上部および左右)に適切な間隔を空けるとともに、直射日光の当たるところやガスコンロなどの熱が発生する近くに設置することは避けましょう。

3. 設備面でのアプローチ

① 冷蔵庫の更新

冷蔵庫は10年前と比較し、インバータ制御技術が導入され、省エネ効果が高くなっています。

また、断熱効果の高い高性能断熱材が使用されるようになり、庫内の温度を低く保てることで省エネ性能を発揮します。

グラフからも分かる通り、年々高効率化されてきており節電が図れますので計画的な更新の検討をお勧めします。

定格内容積別比較



冷蔵庫の期間消費電力量推移

出典: 経済産業省 2023 省エネ性能カタログ

② エアコンの更新

エアコンは稼働状況にもよりますが、使用期間が7年を超えたところから不具合が出やすくなります。15年を超えると、メーカーでも部品保管をしておらず、修理が困難になります。

最近では猛暑の中での稼働によるエアコンの故障が多発しており、夏期は工事や修理の依頼から実施まで日数がかかり、営業にも支障が出る場合がありますので更新は計画的に前もってされることをお勧めします。

③ 自動販売機の更新

自動販売機は低電力化が進んでいます。

銘板の年間電力消費量を確認し（写真参照）、缶ボトル飲料や紙容器飲料の自動販売機の場合は年間消費電力量が 800kWh 以上の場合、カップ式飲料自動販売機の場合は年間消費電力量が 1,000kWh 以上の場合、最新型の機種に更新をすると節電になります。



飲料自販機出荷台数1台あたりの年間消費量(kW・h)



出典：一般社団法人日本自動販売システム機械工業会 HP